

転職や出産…この5年で感じたこと

法律事務所職員
江川 陽子

焦りと不安の30代後半

5年前、私は途方にくれていた。それまで10年間働いていた法律事務所を退職することが決まり、次の就職活動を開始したものの、30代後半の私には特にこれといって資格も無く、むやみに習い事などに通ったりしていた。しかし、所詮それらは心の不安を埋めるためのものにすぎず、焦りばかりがつのっていた。

実際の職務とかけ離れたイメージ

その頃、法律事務所に勤務していることが話題になると、大概の人は「司法試験の勉強をしながらとりあえず働いている」とか「真犯人逮捕のために証拠を探している」とか、実際の職務とはかけ離れたイメージを持っていた。現実の仕事は雑用も多いが専門的な知識も要求される。弁護士を支える縁の下の力持ちみたいで、職員に光があたることは少ないが、けっこう奥が深くて面白い仕事だ。わかってもらえていないのが残念であった。

法律事務職員にも光が…

法律事務にやりがいを感じ、けっこう頑張っていた私であったが、事務所が違えば取り扱う事件も違い、やったことの無い実務も多く、胸を張って「ベテラン法律事務職員です!」とはとても言えなかった。しかし、ちょうどその頃から「パラリーガル」という言葉が頻繁に聞かれるようになり、専門職として光があたってきはじめた。そして、今や弁護士補助職としての研修制度や認定制度ができつつあ

ると聞く。多くの人の長い努力が一気に花開くといった感がある。これからどんどん法律事務の仕事がやりがいのある魅力的なものになっていってほしい。それには今事務員である私たちの努力も重要だ。責任を感じる。

ところで、現在の私の担当は会計事務である。4年ほど前、今の法律事務所の会計職に転職したのだ。会計については初心者であったため簿記学校にも通った。簿記も習ってみると奥が深くとっても難しい。しかも法律事務所の会計はマニュアル本もないし事務所の経営形態も様々で、実務上悩むことが多々ある。弁護士会の事務職員研修会も会計のことまでは扱っていない。会計についてはまだまだ学ぶべきことが多く、先は長い。結局、どんな仕事でも不断に勉強するしかないのだ…。頑張ろう。

このようにして、途方にくれていた5年前には想像もしなかったが、私は今、やりがいを感じつつ法律事務所で会計をしている。地道だが充実した毎日だ。

未来は明るい

余談だが、今の事務所に転職した後、2人の子供に恵まれた（しかも年子で）。産休もきちんと取ることができ今に至るが、事務所の弁護士、そして事務局があたたかく迎えてくれた。本当にありがたい。他の法律事務所で働く私の友人もここ数年出産ラッシュであったが、みな無事に職場復帰し元気に働いている。これも一昔前は考えられなかったことだと思う。弁護士補助職の認定制度ができつつあったり、結婚し子供を産んで育てながら働き続けることができたり…。多くの人の努力でどんどん法律事務所の働く環境が整ってきた。法律事務職員の未来は明るい!!